

主は、人に多くを望みすぎか？

ブライアン・キース司教

「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。」出エジプト記 14:11

なんと痛ましい言葉でしょうか！ここには、挫折と絶望のすべてが表現されています！しかしなぜそう語ったか、理解するには難しくありません、というのは、イスラエル人は何世代もの間、エジプトの地に住んできました—それはヨセフが飢餓から逃れるため、父のヤコブをそこに連れてきて以来のことです。彼らは奴隷となりましたが、奴隷でありながらも、平和のうちに暮らしていました。彼らの人口は大いに増えます。そこには多くの食物と住まいがありました。

しかし今、彼らはエホバ、彼らの祖父たちの神の招きに応えます。エジプトから見知らぬ地、乳と蜜のあふれる約束の地に、大移動が始まります。少しばかり進んだところ、おそらく疲れ切っていたでしょうその時、大きな水の塊に遭遇します。渡ることもできず、迂回できる道があるかどうかもわかりません。そこで見たものは？ファラオがまた心変わりしたのです。地上最強の軍隊が急迫してきます。彼らに守る術はありません。殺戮が迫っています。

これはフェア（公平）でしょうか？彼らはすでに十分行動したのではないのでしょうか？無防備な市民に、熟練した兵士たちの猛襲をしのぐよう、エホバは期待されているのでしょうか？彼らにこの状況の打開を望むのは、不合理ではないのでしょうか？主はあまりに多くを望みすぎてはいらっしゃらないのでしょうか？

面白い問いです。私たちは主を、とても道理をわきまえた方と考えがちです。主は古代ユダヤ人にも、私たちにも、多くを望まれない方だと考えています。神が、私たちに実行不可能な目標を与えるというのは、ばかげています。あまりに多くを望まれるなら、成功は望めず、完全に失敗するに決まっています。五年生に割り算を教えず、微分積分を教えるようなもので、失敗するに決まっています！そのため、私たちは、自分が道理をわきまえているので、かつ主の知恵は間違いなく私たちよりも優れているため、主は人に多くを望まれないであろう、と考えてしまいます。

ふつうならばその通りでしょう—しかし常に、ではありません。時として、主の期待は私たちの予想をはるかに超えています。主がモーセをイスラエルの民の指導者として召された時、モーセは自分がそれを実行可能とは思っていませんでした。モーセは、エジプトでは殺人のお尋ね者で、指導者として受け入れられるわけがなく、公の場で語るべき人ではありません。それにもかかわらず、主は彼にこの重要な役目につくようお望みになります。イスラエルの民にも、荒野の中で約束の地に巨人がいると聞き、とてもそこを獲得できないと恐れている時にもそうでした。主は、その地に入り、すべての敵に打ち克つよう求めます。

新約聖書においても、より多くの例があります。山上の垂訓のすべては、主は私たちが求めているものより、はるかに多くのものを望んでおられることをお示しになられます。

「あなたがたは・・・と言われたのを聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います」

殺人や姦淫に関する法を守るだけでなく、怒りや欲念を避けなければなりません！

ペテロが、主に赦しはどれだけ行えばいいか、七回なら十分か、と尋ねたところ、「七十を七倍」これを主が求められていると聞き、唾然としたことでしょう。

主が、いちじくの木のもとにお越しになり、果実をつける時期ではないはずの木を罵られたときもそうでした。

このすべての場合において、主はまわりに居た者よりも高い期待を抱いておられます。主は最初に与えようと本人たちが考えていたものより、多くを望まれています。そして主は度々、人が備えなければならないと考えているものより、多くを望まれます。

新教会教義には、これに関し、素晴らしい教えがあります。天界のことに関して、「あるがままに見るのではなく、そうあって欲しいと望まれるように主は」ご覧になる、と言われていています(天界の秘義 1871; 靈的体験記 2164)。あるがままではなく、主がそうあって欲しいと!

信じがたいことです! 完全であると私たちが考えている天使たちは、あるがままの自分では見られているのではなく、なりうる姿で見られているのです。

このように感じたことがありますか? 主が多くを望まれすぎていると考えたことがありますか? 主は私たちに、自分が与えることのできるものより、多くを求められているのでしょうか?

通常なら主のご期待に沿うことは、比較的容易です。主は多くの場合には、善は報われ、悪は罰せられるという様に、世界を創られています。自分の共同体に役立つことが難しくはありません、なぜなら雇用され給料をもらわなければ、生きていけないからです。また、家事を少し怠ったり、何かを後回しにしたりするかもしれませんが、必ず行わなければならない事柄があります。でなければ、汚れていない衣服がなくなったり、清潔な食器で食事できなくなったりするからです。そして、十戒を守ることも、困難ではありません。彫像に畏まったり、誰かを殺したり、姦淫を犯しているでしょうか? 安息日を守ること、教会にいつも参列することさえ、さほど難しいとはいえません。—今日、皆さんがここにいらっしゃるように!

宗教的生活を送りなさい、という主の期待は、私たちが基本の方針を守り、日々の仕事をこなすなら、満足させることができます。「善く」あることは、決して難しいことではありません。

しかし、靈的生活への独りよがり、私たちの心にしみこんでゆきます。私たちに期待されていることの全ては、あるルールに従い、自分の義務を果たすなら、報われる、と思うことから始めてもかまいません。これは、裕福な若者が考えたことと同じです。彼に戒めを守ることは「善い」と主が肯定的に応えられたなら、おそらく彼はとても喜んだことでしょう。しかしより完全になるためにはと(おそらく彼は自分がほぼそうであると考えたのでしょう)、彼が質問したため、主は持っているものを全て売りなさいとおっしゃいました。主は、ここで何をなさったのでしょうか? 彼のうぬぼれと、金銭愛を攻められたのです。彼が悲しげに立ち去ったことは疑いありません。主は彼が与えようと準備していたものより、より多くを彼に求められたからです。主は彼のありのままの姿ではなく、彼がなりうる姿をご覧になったのです。

裕福な若い支配者に対して、主が求めた財産の放棄は、私たちが自分のうぬぼれや、現状に対する自己満足を放棄することと同じです。なぜなら、私たちが今の自分に満足した時、もはや進歩する必要があると考えなくなり、自分が関わりたくない自分の過ちを正当化する、強い傾向があるからです。

確かに、平常であれば、主は私たちが休息し、善の幸福を味わうよう望んでおられます。私たちの生活には、平穏で、静かな部分が必要です。しかし、これは善に抵抗するものが取り除かれなければ、永続することができません。そのため主は不満や、失敗や、身勝手さの結果を甘受することを許されます。このとき、主のご期待は大きすぎ、私たちには応えかねるようみえます。

悔い改めに関する多くの教えのすべてを考えてみましょう。行動と意図の両方を自己点検せよ、と言われていています。私たちが地獄の存在を発見したとき、主の助けを求めて、悪から逃れ、新しい生活を始めなければなりません。これが悔い改めであり、靈的成長の道です。さて、この過程は、もし私たちが自分たちに強く埋め込まれていない悪を取り上げるならば、ことは単純です。

自分に十分な収入があり、大きな借金もなく、新しい自動車を強烈に欲しがらなければ、盗みの悪を避けることは簡単です。不幸にも、主は、私たちの収入が不十分で、借金で首はまわらず、買わなければならない物が数多くある時に、主は盗むなかれと求められます。人生がうまく運ばないのは、私たちが与えるよりも、多くを、主が求められているように見えるときです。

これはイスラエルの民が、エジプト軍が接近するのを見たときあげた叫びによって、見事に表現されています。「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。」彼らは自分たちが死にゆくを知っています。主は彼らに多くを望みすぎました。彼らはエジプトの軍勢をどうすることもできません。ある意味では、彼らは正しかったといえます。彼ら自身では、エジプト人たちに勝つことはできません。それは彼らの力を超えています。

霊的にも、同じことが私たちに起こります。私たちが内なる悪、おそらく他の誰もが見ることができないようなものと戦っているときは、エジプト軍に直面しているのと同じようなものです。そのような試練の中で、私たちは、無防備で、罠に陥って、逃れることができないと感じます。主の教えの中に、切に残りたいと試みながらも、心に奥底では、盗みたい、軽蔑したい、他人に悪さをしたいと望んでいます。克服は不可能のように見え、自分の生命のうちにある悪の力を跳ね返すことができません。そこで私たちの魂は、その苦しみに、滅びようとしていると恐れ、叫び声をあげます。

新教会の天界の教えは、そのとき私たちの霊の中に起こることを描きます。すなわち、

「絶望に居る者、試練の最後に居る者は、・・・自分があたかも絶壁にいるかのような、あるいは地獄に沈み込むかのような・・・というのは人の力は限られていて、試練が人に力の限界ぎりぎりに至り、もはや支えきれなくなり、沈んでゆくだけだからです。しかし、人が沈みだすそのとき、主によって引き上げられ、絶望から解放されます。」（天界の秘義 8165:2）

驚きです！主は私たちを引き上げ、断崖を越えさせようとなさいます—自分の力の限界と考えているものの向こう側へ—私たちが失敗したと感じるまで。これこそ、主がイスラエルの民になさったことです。モーセは民がすべての望みが失われるまでは、水を分かつ手段は与えられませんでした。

主は、なぜイスラエルの民とともに待たれていらっしゃったのでしょうか？なぜ、主は私たちが可能と感じるより、試練を長くされようとしたのでしょうか？

第一に、私たちは差し伸べられる手が必要です。自分たちが限界だと考えるものを超えて、伸びなければなりません、でなければ、霊的に大きく成長できません。

運動選手のことを考えてください。成長しようと望むなら、より早く走り、よりうまくボールを打ちたいと望むなら、その人は、今までよりも、より練習しなければなりません。過去の自分の記録と競わないなら、練習に何の意味があるのでしょうか？今まで行ったことに満足していれば、走行タイムは伸びるのでしょうか？自分の過去のベストタイムを超えようとしないなら、そこに進歩はありません。

霊的にも同じ現象が起こります。もし進歩しようとしたいなら、限界を伸ばさなければならず、自分自身のために今までよりも、より高い視野を受け入れなければなりません。幾分かは日々の活動によっても得ることができます。私たちが行うべきことと主がお望みのことを深く学び、法に従い、社会に役立ちます：しかしその幾分かは、定期的な悔い改めと試練のとき、善と悪、真理と偽りの間での内的争闘のうちに起こります。主が今ある自分よりより善いものに向かって私たちを推さなければ、再生は大きく進むことができません。

主が多く望みすぎると見える別の理由、救いを長く待たせる理由は、私たちが助けを求めようとしないからです！なんら靈的变化をもたらさずに問題を否定する非生産的な試みで主を妨げようとしがちです。

自分には悪など全くないと考えている思い上がった自己像を持っている人に関する、天界の教えの例です。スウェーデンボリは、靈界でこれに似た者、自分の誤解から抜け出せずに語る者に出会います。「自分の内に地獄を認めるような状態に戻され、救われるには不可能と絶望するようなところにまで至れば、そのとき初めて、その誤解は、誇りや、自分に比す他人への軽蔑とともに、打ち砕かれます」(天界の秘義 2694:4, 強調付加)。

彼らが、地獄が本当に自分たちの内に存在し、自分たちは主に頼らなければならないという真理に気付くよう、主は彼らに地獄を体験することをお許しになります。これが起こることで、自身の限界と考えている先に推され、成長への可能性が生じます。

主は、私たちに多くを望まれるか？ ある意味では、そうです：主は私たちがより善くなるために、私たちが考えるより、より高い靈的段階に進ませるため、望まれます。私あっちの新しい成長を経験させるため、私たちの靈が耐えられると考えているものを超えるよう押されることを許されます。試練の中で、主は救われるかどうか、苦難が去るのかどうか、絶望にまで至ります。再生の新しいステップに入ることができるように、自分が失敗したように感じることを許されます。主は私たちのありのままではなく、なれる姿をご覧になります。

これは望みすぎでしょうか？ この意味では、決してそうではありません。主は私たち自身よりも、私達の限界をご存じです。主の天界の将来展望は、私たちが想像するものをはるかに超えています。主は私たちが選ぼうとするよりも、より深く経験することをお許しになりますが、その過程の中で決して破滅しないようにお守りになられます。主は私たちの悪、一度に欠点のごく一部だけに立ち向かうようにされます。もし主が次の成長局面の準備ができていないと予見されれば、私たちの準備できるまで、優しく準備させようとなさいます。そう、私たちは状況によって一時的に打ちのめされ、試練のときに試練を乗り越えられないかもしれませぬ(なぜなら成長しないと自由な選択もあるからです)。しかし主は、私たちに準備ができたとき、絶えず新しい機会をお与えになられます。

覚えていただきたい重要なことは、多くを求められたとき、私たちは独りではない、ということです。主は試練にあっては、特にそばにおられ、自分が持っているとは思わない強さをお与えになられます。主はモーセに水を分かち力を与えられましたが、そのように主は受けようとする者すべてに力をお与えになります。私たちがそれを受けるとは、自分から強くなろうとするのではなく(その強さは主のものであるから)、主の導きを望まねばなりません。イスラエルの民が叫びを上げた時、それは主に向かって上げられたものでした。そして水が分かれた時に彼らは渡ります。私たちが助けを必要とするとき、多くを求められたと感じるとき、神と話すことができ、すべての問題を克服するために主の助けを求めることができます。主の力によって目の前で水は分かち、命に導く道が示されます。

出エジプト記 14:1-14

主はモーセに告げて仰せられた。

「イスラエル人に、引き返すように言え。そしてミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバアル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければならない。

パロはイスラエル人について、『彼らはあの地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった。』と言うであろう。

わたしはパロの心をかたくなにし、彼が彼らのあとを追えば、パロとその全軍勢を通してわたしは栄光を現わし、エジプトはわたしが主であることを知るようになる。」そこでイスラエル人はそのとおりにした。

民の逃げたことがエジプトの王に告げられると、パロとその家臣たちは民についての考えを変えて言った。

「われわれはいったい何ということをしたのだ。イスラエルを去らせてしまい、われわれに仕えさせないとは。」

そこでパロは戦車を整え、自分でその軍勢を率い、

えり抜き戦車六百とエジプトの全戦車を、それぞれ補佐官をつけて率いた。

主がエジプトの王パロの心をかたくなにされたので、パロはイスラエル人を追跡した。しかしイスラエル人は臆することなく出て行った。

それでエジプトは彼らを追跡した。パロの戦車の馬も、騎兵も、軍勢も、ことごとく、バアル・ツェフォンの手前、ピ・ハヒロテで、海辺に宿営している彼らに追いついた。

パロは近づいていた。それで、イスラエル人が目を上げて見ると、なんと、エジプト人が彼らのあとに迫っているではないか。イスラエル人は非常に恐れて、主に向かって叫んだ。

そしてモーセに言った。「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということをおぼしてくださったのです。」

私たちがエジプトであなたに言ったことは、こうではありませんでしたか。『私たちのことはかまわないで、私たちをエジプトに仕えさせてください。』事実、エジプトに仕えるほうがこの荒野で死ぬよりも私たちに良かったのです。」

それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。

主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない。」

マタイ 19:16-22

すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」

イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちにはいりたいと思うなら、戒めを守りなさい。」

彼は「どの戒めですか。」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。

父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」

この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何がまだ欠けているのでしょうか。」

イエスは、彼に言われた。「もし、あなたが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」

ところが、青年はこのことばを聞くと、悲しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。

天界の秘義 8165:2

これらの言葉が絶望の言葉であるのは明らかです。さらに、絶望に居る者、試練の最後に居る者は、そのように考え、自分があたかも絶壁にいるかのような、あるいは地獄に沈み込むかのようなようです。しかしこのとき、その想いは何も害を与えず、天使もなんら注意を払いません、というのは人の力は限られていて、試練が人に力の限界ぎりぎりに至り、もはや支えきれなくなり、沈んでゆくだけだからです。しかし、人が沈みだすそのとき、主によって引き上げられ、絶望から解放されます。そのとき大部分は明澄な希望の状態にもたらされ、続いて慰められ、幸運の状態にも入れられます。